

幼児教育長期派遣通信 2学期号

発行 令和2年1月24日

三次市立八次小学校 花本 晶子（派遣園：学校法人伊達学園 三次中央幼稚園）

1学期号の通信では、「遊びは幼児期にふさわしい学び」であることや、遊びの中で育まれていく力についてお伝えしました。2学期号では、幼児期の遊びを通した学びがどのように小学校での学習につながっていくのか…ということについてお伝えしたいと思います。

1 2学期の研修内容

(1) 園内研修

年長児クラス補助 幼児教育アドバイザー訪問による幼児理解等の研修
園内行事（稲刈り・芋掘り・敬老の日葉書投函・お茶会・運動会・誕生会・ぶどうの収穫祭・音楽発表会・クリスマス会・餅つき・園外保育等）

(2) 園外研修

入学予定園児の園所参観 所属校校内研修 長期派遣研修報告会 三次市幼保小連携協議会
三次市教育研究会（幼児教育部会） 接続に係る研修会 つながる子どもの育ち大会（山口県）
幼児教育理解に係る研修会（カリキュラム研究開発園公開保育等）

2 実践を通して

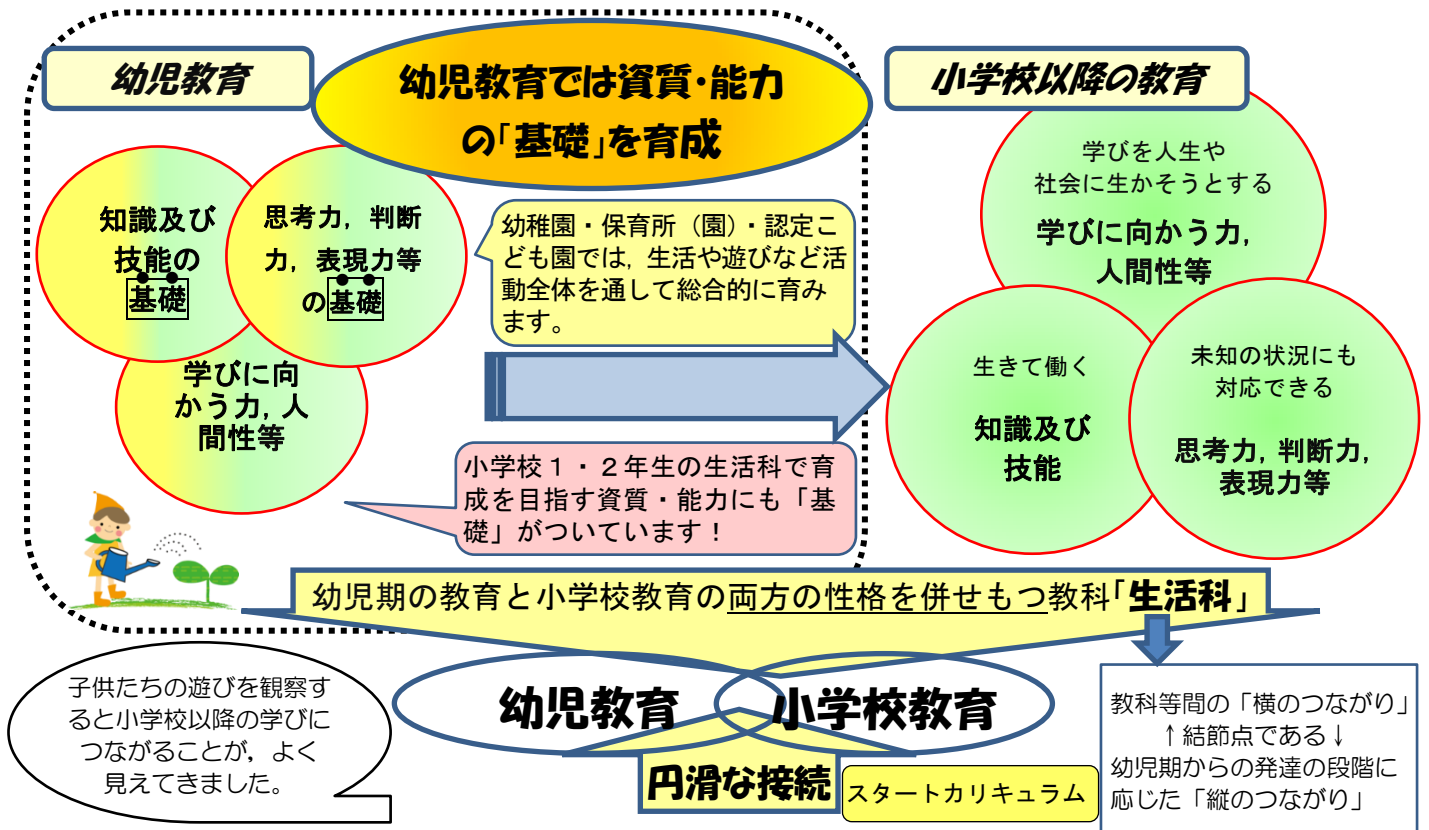
「通信見ましたよ。」「遊びの中で学んでいることを再確認しました。」「通信をコピーして持っています。」などと嬉しいコメントもいただきました！ありがとうございます！



県内外の園・所・小学校を参観する機会が多くありました。

子供の育ちや学びをつなぐ～乳幼児期から小・中・高の教育を通して育む力

今回の指導要領等の改訂では、幼保こ小・小中・中高などの接続において「縦のつながり」で資質・能力を育成していこうとしていることも大きな特徴の一つです。



※幼児教育：就学前の教育のことを示す。

「学ぶ」って楽しいな！

明日も学校に来たいな！

幼児教育から小学校以降の教育への円滑な接続を目指して… レッツ！『スタートカリキュラム』

「スタートカリキュラム」とは、小学校に入学した子供が、幼稚園・保育所・認定こども園などの遊びや生活を通じた学びと育ちを基礎として、主体的に自己を発揮し、新しい学校生活を創り出していくためのカリキュラムです。

(『スタートカリキュラム スタートブック』より)

子供が主体的に自己を発揮しながら学びに向かうためには、「幼児期の学びと育ちを理解すること」が大切。そのために「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を通して、幼児期にどのような姿が育ち、どのように小学校につながっているのか紹介します。

<スタートカリキュラムをデザインする基本的な考え方>

- ① 児童の発達の特徴を踏まえて、時間割や学習活動を工夫する。
- ② 生活科を中心に合科的・関連的な指導の充実を図る。
- ③ 安心して自ら学びを広げていけるような学習環境を整える。
- ④ 一人一人の児童の成長の姿からデザインする。



健康な心と体

もうちょっとだ！力をふりしぼっています。

手の先から足の先まで全身を使って遊んでいます。同時に、友達と協力したり、達成感を味わったりしています。このような楽しさは、小学校の学習での運動遊びや、休み時間などに友達と一緒に楽しく過ごすことにつながります。

幼保こ・小どちらの要領にも示されている「共通言語」

幼児期の終わりまでに育ってほしい姿
～10の姿～

- ① 健康な心と体
- ② 自立心
- ③ 協同性
- ④ 道徳性・規範意識の芽生え
- ⑤ 社会生活との関わり
- ⑥ 思考力の芽生え
- ⑦ 自然との関わり・生命尊重
- ⑧ 数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚
- ⑨ 言葉による伝え合い
- ⑩ 豊かな感性と表現



運動会での鼓隊が楽しくて自分たちで練習中！

豊かな感性と表現

自信をもって表現することは、音楽や造形、身体等による表現につながることは勿論、自分の気持ちや考えを伝える時にどうしたらよいか考えるなど、学習全般の素地になっていきます。また、学校生活を意欲的に進める基盤となっていきます。



数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚

おすし屋さんだよ。お金や招待状も作りました！

「文字が読める・書ける」ではなく、大切なのは「関心をもつこと・感覚が磨かれること」。そのことが、小学校の学習に関心をもって取り組み、実感を伴った理解につながっていきます。ごっこ遊びの中で「お客様に来てもらいたい！」という思いや願いから、字を書く必然性が生まれ、意欲につながっています。

学びの芽生えから自覚的な学びへ…
学び続ける力を！

思考力の芽生え

水が流れていくよ。おもしろいな。今度は、ここから流そう！

「何だろう？」「どうして？」水の流れるに興味をもった子供たち。思考力の芽生えは、小学校生活で出会う新しい環境や教科等の学習に興味や関心をもって主体的に関わることにつながります。また、「こうしたら、どうなるかな。」と探究心をもって考えたり試したりする経験は、主体的に問題を解決する態度へとつながります。

☆「幼児期」とあるから、学校には関係ない！？☆
「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿を踏まえた指導を工夫すること」は、小学校学習指導要領（総則・各教科等）に明示されています。

3 まとめ

園児の様子を観察していると、同じ年齢であってもその育ちは一人一人違うことがよく分かります。また、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」は、到達すべき目標ではなく、「できる・できない」を判断するものでもありません。幼児教育と小学校教育が「育ってほしい姿」を手掛かりに、子供一人一人の育ちを共有していくことが大切なのだと感じました。さらに、資質・能力にも含まれている非認知能力（社会情動的スキル）は8歳頃までに顕著に発達し長期に渡って持続し、学校での学力や態度、人間関係などに影響を与えることも研修を通して学びました。この時期は、「豊かな人生を送る」ために「学び続ける力」を育てることにつながる大切な時期であることを改めて感じました。

乳幼児教育支援センターから

「幼児期に育って欲しい姿」は、資質・能力が育まれている幼稚園等終了時の具体的な姿です。到達目標ではないこと、一人一人育ちが違うことなどに考慮しつつ、この「幼児期に育って欲しい姿」が小学校でどうつながっているのかを考えることは、幼児期から児童期への発達の流れを理解することにつながります。